

第17回スポーツ健康交流大会

競技規則

1 ソフトボール

1 参加対象は、会員（特例会員含む）とする。

2 チーム構成等

（1）競技者は9人（性別は問わない）とする。

（2）1チームは20人以内とし、監督1人、主将1人、塁審3人、記録員1人及び選手で構成する。なお、選手は監督等を兼ねることができる。

3 審判

主審は、専門家に委嘱するが、塁審3人、記録員1人は参加チームが担当する。

4 試合方法

（1）試合は、5回又は45分経過後は新しいイニングに入らない。同点の場合は、最終出場者9人ずつによる抽選で決する。

なお、後攻がリードした状態で後攻が攻撃中に45分を経過したときは、45分で試合を打ち切る。

（2）塁間は18.29m、投球距離は14.02mとする。

（3）試合球は、協会「ゴム製3号」とし、主催者が用意する。

（4）バット（ソフトボール用（公認金属バットを含む））、ヘルメット、キャッチャーマスク、レガース及びボディプロテクターは参加者が用意する。

（5）ダブルベースを使用する。

（6）リエントリー（再出場）は採用するが、DH制（指名打者制）は採用しない。

（7）ベンチは、組合せ番号の若い方を1塁側とする。

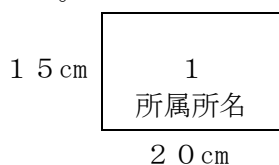
5 ユニフォーム

（1）同一の色、形、意匠が望ましいが、強制はしない。

（2）背番号は、1番～20番までとする。ただし、すでに番号がユニフォームに取付けられ、1番～20番までを使用しがたい場合は、着用されている番号の使用を認める。

（3）選手全員が同一の色、形、意匠、所属所名の表示がされているユニフォームを着用している場合でも、背番号がついていないときには、背に縦15cm横20cm四方のゼッケンをつけること。

また、チーム名の表示が、所属所名を表していない場合は、別に所属所名を表示すること。



- 6 監督・主将は、各競技場本部の呼出しにいつでも応じることのできるよう選手を待機させておくこと。（前の試合が棄権や没収試合のために、試合開始時刻が早まることがあるので注意すること。）
- 7 棄権と没収試合
 - (1) 前もって監督から選手9人がそろわない等の理由で棄権の申し出があった場合、相手チームを不戦勝とする。
 - (2) 次の場合は没収試合とし、過失のないチームを「7対0」で勝ちとする。
 - ア 試合招集コール時に正規の選手がそろわない場合。
 - イ オーダー表を提出しなかった場合、又は選手が9人未満となった場合。
 - ウ その他、ソフトボール協会の定めにもとづいて主審、大会本部、いずれかが宣告した場合。
 - (3) 登録外の者又はゼッケン表示の定めに反する者の出場は認めない。これらの選手を除き9人未満となった場合は、没収試合とする。ただし、審判又は大会本部が、ゼッケンの付替え・訂正などを短時間で行えると判断したものについては、この限りではない。
- 8 オーダー表は、試合前に主審に提出すること。
- 9 抗議は、監督又は主将に限り行うことができる。
- 10 競技にあって不正（暴力行為等）を行った場合、次のとおり処置する。
 - ア 試合中の場合は、相手チームを勝ちとする。
 - イ 試合終了後に発見された場合は、次の相手チームの勝ちとする。
 - ウ 入賞している場合は入賞を取消し、以下順位を繰り上げる。
- 11 この競技規則に触れていないことは、協会規則を参考に大会本部と審判長が定める。

2 ソフトバレーボール

1 参加対象は、会員（特例会員含む）とする。

2 チーム構成等

（1）競技者は男女混合の4人とし、女性が常時2人以上出場しなければならない。

＊女性会員の少ない一部事務組合等にあつては、構成市町村の会員と合同してチームを編成することができる。

（2）1チームは8人以内とし、監督1人、主将1人、主審1人、線審2人、スコアラー1人及び選手で構成する。なお、選手は監督等を兼ねることができる。審判は相互審判制とするので、審判の可能なチーム編成をすること。

（3）審判への質問は主将が行う。

（4）選手交替及びタイムアウト要求は監督又は主将が行う。

3 審判

（1）参加チームによる相互審判とする。

（2）チームは主審1人、線審2人、スコアラー1人を特定しなければならない。

4 用具・コート

（1）ボールは日本バレーボール協会制定のソフトバレーボールを使用することとし、主催者が準備する。

（2）コートの広さは13.40m×6.10mとし、バドミントンのダブルス用コートの利用も可とする。ただし、その場合、センターラインを引き、エンドライン外にサービス・ゾーンを設ける。

（3）ラインテープの幅は4cmのものを使用し、コート内に含まれる。

（4）ネットの高さは200cmとする（バドミントン支柱の活用も可とする）。アンテナはネットの上端から100cm上方に出るよう左右1本ずつ支柱の外側に取り付ける。

5 試合方法

（1）1セット15点のラリーポイント制で、3セットマッチ（2セット先取）とする。

14対14となったときはデュースとして、2点差がつくまで行う。ただし、17点で打ち切り、17点を先取したチームを勝ちとする。

（2）タイムアウトは1セットにつき2回以内で、1回30秒とする。

（3）選手の交替は、1セット4回以内とする。

（4）試合開始前に主将のトスで勝者がサービス権又はコートのいずれかを選定し、コートの交替はセットごとに行う。最終セットは再度トスをし、いずれかのチームが8点先取した時点でコートの交替を行う。

（5）選手のポジションとローテーション

①サービスが打たれた後は、特にコート内でのポジションの制限はない。

②レシーブするチームがサービス権を得た時、時計回りに一つずつ移動する。

（6）サービスは1回とする。ただし、サービストスしたボールがサーバーの体に触れなかった場合のみ、1回だけサービスをやり直すことができる。

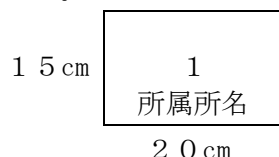
（7）パスは3回以内とする。ただし、ブロックのワンタッチは除く。ブロック後のボールは、ブロック時に触れた者を含めて誰が触ってもよい。

- (8) 相手方のサービスしたボールをネット上端より完全に高い位置からアタック・ヒットを完了したときは反則となる。
- (9) ブロックの場合を除き、同じ選手が2度続けてボールに触れることはできない。
ただし、チームの1回目の打球のとき、ボールが身体の2カ所以上に連続して当たってもよい。ただし、その接触は、一つの動作中に限られる。
- (10) 同一チームの2人の競技者が同時にボールに触れたときは、一回触れたものとし、その後いずれの競技者がひきついてもよい。

6 ユニフォーム

- (1) 同一の色、形、意匠が望ましいが、強制はしない。
- (2) 背番号は、1番～8番までとする。ただし、すでに背番号がユニフォームに取付けられ、1番～8番までを使用し難い場合は、着用されている番号の使用を認める。
- (3) 選手全員が同一の色、形、意匠、所属所名の表示がされているユニフォームを着用している場合でも、背番号がついていないときには、背に縦 15cm 横 20cm 四方のゼッケンをつけること。

また、チーム名の表示が、所属所名を表していない場合は、別に所属所名を表示すること。



- 7 監督及び主将は、本部の呼出しにいつでも応じることのできるよう選手を待機させておくこと。(前の試合が棄権や没収試合のために試合開始時刻が早まることがあるので、注意すること。)

8 棄権と没収試合

- (1) 前もって、監督から選手4人がそろわない等の理由で棄権の申出があった場合、相手チームを不戦勝とする。
- (2) 次の場合は、没収試合とし、過失のないチームを「2対0」で勝ちとする。
ア 試合招集コール時に正規の選手がそろわない場合。
イ 選手が4人未満となった場合。
ウ その他、バレーボール協会の定めにもとづいて大会本部が宣告した場合。
- (3) 登録外の者又はゼッケン表示の定めに反する者の出場は認めない。これらの選手を除き4人未満となった場合は、没収試合とする。ただし、大会本部が、ゼッケンの付け替えや訂正を短時間で行なえと判断したときは、この限りではない。

9 競技にあって不正（暴力行為等）を行った場合、次のとおり処置する。

- ア 試合中の場合は、相手チームを勝ちとする。
- イ 試合終了後に発見された場合は、次の相手チームを勝ちとする。
- ウ 入賞している場合は入賞を取消し、以下順位を繰り上げる。

- 10 この競技規則に触れていないことは、協会規則を参考に大会本部と審判長が定める。

3 卓球

1 参加対象は、会員（特例会員含む）とする。

2 競技部門は、次のとおりとする。

シングルス

①男子の部

②女子の部

3 審判

参加者による相互審判とする。

4 試合方法

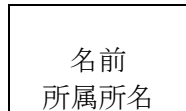
(1) 試合は、11点の5ゲームマッチ（3ゲーム先取）とする。10対10となったときはデュースとして、2点差がつくまで行う。

(2) サービスは2本交代とする。ただし、デュースのときは1本交代とする。

(3) 試合球は、直径40mm、重さ2.7gとし、主催者が準備する。

5 選手は、所属所名・名前を表示したゼッケンを背中につけること。

15 cm



20 cm

6 選手は、本部の呼び出しにいつでも応じることのできるよう待機しておくこと。（前の試合が棄権や没収試合のために試合開始時刻が早まることがあるので注意すること。）

7 棄権と没収試合

次の場合は没収試合とし、過失のないチームの不戦勝とする。

ア 選手から棄権の申し出があったとき。

イ 試合招集コール時に選手がいないとき。

ウ その他、大会本部が判断したとき。

8 競技において不正（暴力行為等）を行った場合は、次のとおり処置する。

ア 試合中の場合は、相手チームの勝ちとする。

イ 試合終了後に発覚した場合は、次の相手チームを勝ちとする。

ウ 入賞している場合は、入賞を取り消し、以下順位を繰り上げる。

9 この競技規則に触れていないことは、卓球連盟競技規則を参考に大会本部と審判長が定める。

4 バドミントン

1 参加対象は、会員（特例会員含む）とする。

2 競技部門は、次のとおりとする。

ダブルス

①男子の部

②女子の部

③混合の部

3 審判

参加者による相互審判とする。

4 試合方法

（１）試合は、２１点の３ゲームマッチ（２ゲーム先取）とする。２０対２０となったときはデュースとして、２点差がつくまで行う。ただし、３０点で打ち切り、３０点を先取した方を勝ちとする。

（２）試合球は、水鳥球とし主催者が準備する。

5 選手は、所属所名・名前を表示したゼッケンを背中につけること。



6 選手は、本部の呼び出しにいつでも応じることのできるよう待機しておくこと。（前の試合が棄権や没収試合のために試合開始時刻が早まることがあるので注意すること。）

7 棄権と没収試合

次の場合は没収試合とし、過失のないチームの不戦勝とする。

ア 選手から棄権の申し出があったとき。

イ 試合招集コール時に選手がいないとき。

ウ その他、大会本部が判断したとき。

8 競技において不正（暴力行為等）を行った場合は、次のとおり処置する。

ア 試合中の場合は、相手チームの勝ちとする。

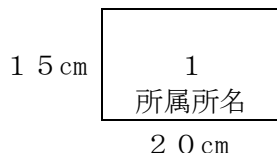
イ 試合終了後に発覚した場合は、次の相手チームを勝ちとする。

ウ 入賞している場合は、入賞を取り消し、以下順位を繰り上げる。

9 この競技規則に触れていないことは、日本バドミントン協会競技規則を参考に大会本部と審判長が定める。

5 グラウンドゴルフ

- 1 参加対象は、会員（特例会員含む）とする。
- 2 チーム構成
競技者は4名とし、1チームは6人以内（性別は問わない）とする。
- 3 記録・判定
各ホールとも1打目はティーマークから4人が順次打ち、2打目以降はホールから自
ボールが遠い競技者順に打つ。競技の記録・判定は、同伴の競技者相互に公平に行う。
- 4 用具・ホール数
(1) 用具は会場にて借り上げる用具、又は自前の用具を使用する。
(2) 2名1組で指定されたホール（指定されたホールがスタート位置となる）に入り、
指示に従い設定されたホール数をプレーする。
(3) ホール数は、エントリーチーム数を勘案のうえ設定する。
- 5 練習
競技者はいかなる打球練習も行ってはならない。
- 6 試合方法
(1) 競技者4人の合計打数の少ないチームを上位とする。
なお、同点の場合は各競技者の記録を比べ、最少打数の競技者の多いチームを上位
とする。さらに同点の場合は、次の少ない打数の競技者の多いチームを上位とする。
(2) 打ったボールが紛失したりコース外に出たときは1ペナルティとし、ボールを自分
のコース（ボールが出た地点）に戻して打つ。
(3) 競技の妨げになる球は、一時的に取り除くことを要求することができる。取り除く
のは、球の持ち主が行う。その際、ホールポストに対して球の後方にマークし、
取り除かなければならない。
(4) 競技者の球が、同伴の競技者の球に当たった場合は、球の止まったところから競技
を続け、同伴の競技者の球は元の位置にかえす。
(5) 打ったボールが1打目でホールポストに入ったとき（ホールインワン）は、合計打
数からホールインワン1回につき3打差し引いて計算する。
(6) 競技者の交替は、一つのホール終了後行う。ただし、競技者にやむを得ない事故等
があった場合は途中交替を認める。
- 7 競技者は、所属所名及び番号（1～4）を表示したゼッケンを胸につけ、運動靴又は
ゴルフシューズを着用すること。



- 8 エチケット
(1) 自分のプレーが終わったら、すみやかに次のプレーヤーの妨げにならない場所に行
くこと。
(2) 同伴の競技者が打つ前後は、話したり、ボールやポストのそばに立ったりしないこと。
(3) 足跡等は、必ず元の状態に自分で直すこと。

6 ミニ駅伝

- 1 参加対象は、会員（特例会員含む）及び府民とする。
- 2 チーム構成等
 - （１）競技者は４人（性別は問わない）とする。
 - （２）１チームは６人以内（補欠含む）とし、監督１人、主将１人及び選手で構成する。
なお、選手は監督等を兼ねることができる。
- 3 競技方法
 - （１）陸上競技場周回の特設コース（１周 626m）を４人で１８周する。
 - （２）各走者の周回数は次のとおりとする。
①３周 ②４周 ③５周 ④６周
 - （３）タスキリレーは決められたリレーゾーンで行なわなければならない
 - （４）タスキ、ゼッケンは主催者が用意する。
 - （５）その他詳細は、競技前に参加者に説明する。

7 テニス

- 1 参加対象は、会員（特例会員含む）とする。
- 2 競技部門は、次のとおりとする。

ダブルス

- ①男子の部
- ②女子の部
- ③混合の部

- 3 審判

参加者による相互審判とする。

- 4 試合方法

- (1) 試合は、1セットマッチ（6ゲーム先取、ノーアドバンテージ方式）とする。
- (2) 試合球は、主催者が準備する。

- 5 選手は、所属所名・名前を表示したゼッケンを背中につけること。



- 6 選手は、本部の呼び出しにいつでも応じることのできるよう待機しておくこと。（前の試合が棄権や没収試合のために試合開始時刻が早まることがあるので注意しておくこと。）

- 7 棄権と没収試合

次の場合は没収試合とし、過失のないチームの不戦勝とする。

- ア 選手から棄権の申し出があったとき。
- イ 試合招集コール時に選手がいないとき。
- ウ その他、大会本部が判断したとき。

- 8 競技において不正（暴力行為等）を行った場合は、次のとおり処置する。

- ア 試合中の場合は、相手チームの勝ちとする。
- イ 試合終了後に発覚した場合は、次の相手チームを勝ちとする。
- ウ 入賞している場合は、入賞を取り消し、以下順位を繰り上げる。

- 9 この競技規則に触れていないことは、日本テニス協会競技規則を参考に大会本部と審判長が定める。

8 ドッジビー

1 参加対象は、会員（特例会員含む）とする。

2 チーム構成等

（1）競技者は5人（性別は問わない）とする。

（2）1チームは10人以内とし、監督1人、主将1人、主審1人、記録員1人及び選手で構成する。なお、選手は監督等を兼ねることができる。

3 審判

（1）参加チームによる相互審判とする。

（2）チームは主審1人、記録員1人を特定しなければならない。

4 用具・コート

（1）使用するディスクは「ドッジビー270」とし、主催者が準備する。

（2）コートの広さはバドミントンのダブルス用コートとし、センターラインを設ける。
コートの広さは13.40m×6.10m。

5 試合方法

（1）1ゲームは2セット。1セットは4分間とし、ハーフタイムは2分とする。

（2）4分経過前に相手チームの内野プレーヤーを全員アウトにすればそのセットは終了となる。

（3）セット終了時に残っている内野プレーヤーを数え、2セット合計で多いチームの勝ちとする。

（4）ゲーム開始時に、外野を1名以上配置する。

（5）選手交代は、セット間の休憩時にのみ行うことができる。

（6）内外野を問わず、ディスクをキャッチしたプレーヤーまたは、地面に落ちたディスクを拾得したプレーヤーがスローワーとなる。

※内野同士でディスクの受け渡しはできない。

（7）ディスクのスロー方法はバックハndsローのみとする。

（8）ディスクを投げるときにラインを踏むまたは踏み越えた場合、相手チームにディスクを渡しプレーを再開する。

（9）ディスクをキャッチするときにラインを踏むまたは踏み越えた場合、相手チームにディスクを渡しプレーを再開する。

（10）ライン上に止まったディスクの所有権は、最後に触れたプレーヤーの相手チームが得る。

（11）空中にあるディスクはどの時点で触れてもキャッチしても構わない。その場合キャッチしたプレーヤーが所有権を得る。

（12）アウトになった内野プレーヤーは速やかに外野に移動する。

（13）相手チームの内野プレーヤーをアウトにした外野プレーヤーは速やかに内野に移動する。ただし、外野プレーヤーが1人のときは内野に戻ることはできない。

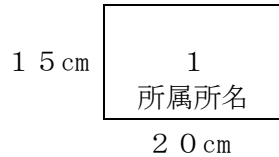
6 ユニフォーム

（1）同一の色、形、意匠が望ましいが、強制はしない。

（2）背番号は、1番～10番までとする。ただし、すでに背番号がユニフォームに取付けられ、1番～10番までを使用し難い場合は、着用されている番号の使用を認める。

- (3) 選手全員が同一の色、形、意匠、所属所名の表示がされているユニフォームを着用している場合でも、背番号がついていないときには、背に縦 15cm 横 20cm 四方のゼッケンをつけること。

また、チーム名の表示が、所属所名を表していない場合は、別に所属所名を表示すること。



- 7 監督・主将は、各競技場本部の呼出しにいつでも応じることのできるよう選手を待機させておくこと。(前の試合が棄権や没収試合のために、試合開始時刻が早まることがあるので注意すること。)
- 8 棄権と没収試合
- (1) 前もって監督から選手 5 人がそろわない等の理由で棄権の申し出があった場合、相手チームを不戦勝とする。
- (2) 次の場合は没収試合とし、過失のないチームを「5 対 0」で勝ちとする。
- ア 試合招集コール時に正規の選手がそろわない場合。
- イ 選手が 5 人未満となった場合。
- ウ その他、主審、大会本部、いずれかが没収試合と宣告した場合。
- (3) 登録外の者の出場は認めない。これらの選手を除き 5 人未満となった場合は、没収試合とする。
- 9 抗議は、監督又は主将に限り行うことができる。
- 10 競技にあって不正（暴力行為等）を行なった場合、次のとおり処置する。
- ア 試合中の場合は、相手チームを勝ちとする。
- イ 試合終了後に発見された場合は、次の相手チームの勝ちとする。
- ウ 入賞している場合は入賞を取消し、以下順位を繰り上げる。
- 11 この競技規則に触れていないことは、協会規則を参考に大会本部と審判長が定める。